

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年 5月 26日

【評価実施概要】

事業所番号	2272100229
法人名	(有)ウイズネット富士
事業所名	グループホームみんなの家富士宮
所在地 (電話番号)	静岡県富士宮市佐折25-9 0544-54-3366
評価機関名	セリオコーポレーション株式会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成20年 3月 10日

【情報提供票より】(平成20年 2月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14年 12月 01日
ユニット数	ユニット 18人
職員数	14人 常勤 14人, 非常勤 0人, 常勤換算 5.59

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨造り	
	3階建ての	1階 ~ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(120,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,166	円

(4)利用者の概要(平成 20年 2月 1日現在)

利用者人数	14名	男性	3名	女性	11名
要介護1	3名	要介護2	2名		
要介護3	5名	要介護4	4名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 80,57歳	最低	72歳	最高	94歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	北川内科医院、北山医院、みむら歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

富士山を仰ぐ白糸の滝近くに立地し、広い芝生の中庭を持つ自然環境に恵まれたホームである。ホーム長の地道なホーム運営への質的向上意欲の基、看護師資格を持つ計画作成担当者によるきめ細かな介護計画作成や見直しの仕組み、ホーム長や職員一体となった利用者ケアを重視した運営が行われている。運営推進会議を通じて地域との関係作りや、家族へのこまめな情報提供、提携医の協力による内部研修、保健士による栄養管理研修などの取組みも行われている。更に、外部評価、自己評価を全職員で取り組むことにより一人ひとりの課題認識やホーム運営のサービス向上への課題取組みを望みたい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善課題であったホーム活動状況報告などは運営推進会議や家族への近況報告にて、介護計画見直しは3ヶ月毎の職員によるモニタリングで実施、保健士の協力による栄養管理のホーム内研修会実施、日々の申し送りにはヤリハット記入、苦情相談窓口の明記や運営推進会議案内に意見・要望欄設置等具体的な改善取組みが行われている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>各フロアリーダーが職員の意見を聞きながらまとめたが、全職員参加で自己評価に取り組むことによる協議によって、各項目の意義や取組み課題の認識につながる取組みが望まれる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月毎の定期開催で、ホーム活動報告、行事予定、口腔ケア・認知症音楽療法説明会、防災訓練など地域との関係作りや家族との意見交換の取組みを行いホーム運営に生かしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>運営推進会議、近況報告、来訪時の面談、電話等で意見・要望を聞き毎月のフロア会議などで職員間で話し合い運営に生かしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩の際に地域の人々や近隣の小学校への挨拶や声かけを行っており、ホーム行事のバーベキュー大会などへの参加呼びかけや、地域のドンド焼きや文化祭への参加など地域との交流を大切にしている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開設時に、「人間の尊厳を大切にしながら地域の中で生活する」という理念を作り日々の支援にあたっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関に掲示され、職員や利用者にも常に意識できるようにしている。毎月のフロア会議や日々のミーティングで話し合いをし、利用者の暮らしに反映するように努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩の際に地域の人々や近隣の小学校への挨拶や声かけを行っており、ホーム行事のバーベキュー大会などへの参加呼びかけや、地域のドンド焼きや文化祭への参加など地域との交流を大切にしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は外部評価の意義を理解して改善に向けての取り組みが行われている。自己評価表は、1F・2Fのフロアリーダーが中心になり、職員の意見を参考にしながら作成された。自己評価・外部評価ともに、その結果をホームの改善に結び付けようとする意気込みが感じられた。	○	外部評価をホーム運営の改善に活かしているので、更に自己評価も職員全員で取り組み、各項目の意義や取組課題への認識につなげるような活動が望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に地域代表、民生委員、利用者家族、地域包括支援センター、ホームスタッフなどのメンバーで定期的に開催され、ホームの活動報告、口腔ケアや認知症音楽療法、防災訓練協力依頼など地域との協力関係を築く取り組みが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者とは介護認定更新時など定期的に連絡連携を図り、行き来するような関係づくりを行っている。また、他のホームを含めて管理栄養士による栄養管理についての講習会開催を依頼するなどの取り組みが行われている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月金銭収支報告と併せて利用者の近況報告を管理者と利用者担当職員がしたためた手紙や写真を送っている。またホームになかなか来られない家族には電話での報告もしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時の面談や、運営推進会議への参加案内文に意見・要望欄を設けるなどで意見・不満・苦情等を表わす機会を設け、出された意見等は毎月のフロア会議などで全職員が共有し、改善に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が止むを得ず離職する場合は、利用者や家族に不安を与えないよう十分に理解が得られる様説明し、新しい職員とのラップ期間を設け、利用者への影響を防ぐよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加呼びかけを行い、ホーム長が各職員別に参加計画を推進している。それらの研修報告は全体会議で報告され、全職員への共有化も図られている。また、提携医の協力の下、2ヶ月に1回、認知症や医療関連の内部研修も開催されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム管理者会議や合同研修への参加や、他ホーム職員との新年会や合同運動会実施などでの交流を行い質の向上に励んでいる。また、他のGH職員と相互研修や交流を計画中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居予定利用者へのホーム見学や一緒にお茶の機会を設けるなどホームに馴染む機会を作っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で利用者と支えあう関係を作り、調理方法や裁縫・雑巾作り、花の手入れや貼り絵など一緒に楽しむ関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりあいの中で、相手からの返事や表情などによりその真意を推し測ったりして確認をしている。また、意思疎通の困難な利用者にとっては家族や関係者から情報を得るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画担当が本人・家族からの希望を聞き、また、職員全員から日常のケアの状況や意見等を聞いて、利用者本人の希望に添った介護計画を作成している。介護計画を職員全員に周知・徹底を図るため、介護計画書の写しを職員の活動する職場にも置いている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画担当は職員が記録する「サービス実行モニタリング記録表」や、職員からの意見、家族等からの希望を取り入れ、3ヶ月に1回見直しを行っている。また、状況変化のあった場合は臨機応変に見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や外出(買い物、外食、四季ごとの花見など)の支援等、利用者に満足が得られるよう柔軟な対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医については家族等に相談して協力医に受診をお願いしているが、その他については本人や家族等の希望するかかりつけ医としている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	2件の看取りを経験し、家族・医師との対応、職員間での話し合いによるチーム連携の基に行われている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティング等折りに触れ職員の意識向上に取り組んでおり、日々の言葉づかいや対応にはプライバシーを損ねる言動は見受けられなかったが、訪問者の来訪を記録する用紙は一覧表形式になっていて個人情報が侵害される恐れがある。	○	訪問者の来訪を記録する用紙は、訪問者ごとに一葉とするなど個人情報管理の方策が望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりの体調や趣味、気持ちを尊重した支援がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や新鮮なものを採り入れ、利用者の好みや希望のものなどメニューを工夫している。また、職員も利用者と同じテーブルを囲んで楽しく同じものを食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日可能で2～3日に1回を基本に、職員が一方的に決めず、利用者のその日の希望を確認して入っ ていただいている。また、入浴を楽しまれるようお湯の 温度の調整や入浴剤を使用するなど工夫した支援を 行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野や体を動かせる範囲内で一人ひとりの力を発 揮してもらえるよう、貼り絵、習字、折り紙、掃除、食事 の準備・片付け、洗濯物干しなどお願いできそうな仕事 を頼んでおり、必ず感謝の気持ちを伝えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気、本人の気分や希望に応じて、季節感を肌で感じ てもらい、心身の活性につながるよう日常的に散歩、買 い物に出かけている。日常的でないにしても外食、ドラ イブ、誕生日には本人希望の場所に出かける等の支 援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が鍵をかけることの弊害を理解しており、職員に よる見守りの方法を徹底し、止めるのではなく、さりげな い声かけや一緒についていく等安全面に配慮した支 援をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回利用者とともに避難訓練、 消火訓練を行っている。地域の協力体制については、 自治会、運営推進会議で協力をお願いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食事の量と、歯や飲み込みの状態等によって刻んだりろみをつけたりして食べやすく、また、保健士の指導による栄養バランスにも注意を払っているが、利用者全員の水分の摂取量を記録していない。	○	医師から指示された一部の利用者は、水分の摂取量を記録しているが、利用者全員の健康管理の為に(について)摂取量の記録が望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と共に制作した貼り絵・塗り絵や行事の写真等をフロアに飾りつけ、利用者が自分の家だという意識を高めてもらうような工夫がされている。フロアに飾り付けられたものはケバケバしさはなく季節感にあふれたものとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやイス以外にも、それぞれ利用者の生活感のする仏壇、家族の写真、長年使い慣れた家具、テレビ等利用者各人の生活スタイルに合わせたものが各居室には持ち込まれている。		